

地域と社会に開かれ、「未来に輝く」大学へ

教職員の皆さま

盛夏の候、日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。本号では、本学が地域社会とともに歩み、未来へ向けて新たな価値を創造する二つの取り組み、すなわち「ねんりんピック彩の国さいたま2026」への参画と、リファインホールディングス株式会社との産学連携協定締結についてご紹介いたします。いずれも本学の理念である「まごころとおもいやり」を社会の中で実践し、東都大学の存在価値を広く発信する重要な機会です。

01 ねんりんピック彩の国さいたま2026への参画

2026年11月に埼玉県で開催される「ねんりんピック（全国健康福祉祭）」は、高齢者の健康づくりや社会参加を推進する全国的な祭典です。深谷市ではゲートボール競技が開催され、本学も協賛大学として運営に参画いたします。本学は健康チェックブースや地元料理の提供などを担当し、今回は約60名の深谷キャンパスの学生ボランティアが参加予定です。さらに、大会パンフレット等で活用する本学キャッチコピーを学内で募集し、2名を佳作として選出しました。多くの応募作品から得た着想をもとに、キャッチコピーは下記に決定しました。

輝くわたし  未来が見える

02 産学連携協定締結

7月23日、本学はリファインホールディングス株式会社との産学連携協定を締結いたしました。本協定では、共同研究の推進、教育連携、社会実装・地域貢献を中心に取り組みを進めてまいります。

同社は、有機溶剤リサイクルや資源循環事業を展開し、持続可能な社会の実現に取り組む企業です。本学が有する健康科学分野およびヒューマンケア領域の知見を活かし、教育の高度化、研究領域の拡大、社会課題の解決に向けた実践的な取り組みを推進してまいります。



<佳作>

ヒューマンケア学部看護学科：栗原 直弥先生
幕張ヒューマンケア学部健康科学科：横地 正裕先生

私立大学として生き残る大学の在り方

少子化の進行に伴い、私立大学を取り巻く環境はこれまで以上に厳しさを増しています。このような時代に本学が生き残るためには、学生募集だけではなく、地域に貢献し、社会課題の解決に寄与し、企業や自治体から信頼される大学であり続けることが不可欠です。

ねんりんピックへの参画は地域との連携を象徴する取り組みであり、産学連携協定の締結は社会との共創を推進する挑戦です。これからの東都大学は、単なる教育機関ではなく、地域・企業・行政・医療機関をつなぐプラットフォームでなければなりません。教育、研究、社会貢献を有機的に結び付けながら、人々の幸福に貢献できる大学こそが、これからの時代に選ばれる大学です。

東都大学はこれからも、「まごころとおもいやり」の理念のもと、人に寄り添い、社会に貢献し、地域とともに発展する大学として歩み続けます。